
短歌ごっこ'10.如月

逸見

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

短歌「つこ・10・如月

【著者名】

Z2668M

【作者名】 逸見

【あらすじ】

日常を詠んできます

短歌の形式だけど、「短歌」と言い切つてしまつのはなんかおこがしい

そんな訳で「短歌」です

モノクロの
世界に色を
さしていく
一つまた一つ
紡ぐ日常

痛いよな
風の中ゆく
帰り道
寒さがゆるむ
春を熱望

新しい
化粧品ただ
それだけで
違う自分に
なった錯覚

探しては
つなぎ合わせる
時もある
キモチの欠片と
言葉の欠片

何をする

笑っても
泣いても悔いても
焦つても
一日はみな
24時間

フル充電
一日保たない
ほど使い
私はここに
何を求める

5 - 2が
1にも4にも
なるような
人の心の
不思議を思う

まさか自分が
やらかそうとは
メガネかけ
メガネを探す
笑い話

あてなく過ぎます

日曜日

贅沢でもあり

つまらなくもあり

水たまり

蹴散らし車の通り音

小さな雨音

それだけの午後

イイヒトと

言われたならば

むずがゆく

ギゼンシャ 納得

しつつも憤慨

横書きで

絵文字の混ざる

ひとりごと

31音

気の向くままに

一点を

共有しては

離れ行く

直線 曲線

グラフの中で

ゆらゆらと

小さく炎

揺らしては

燃え続けてく

ろうそくの朱アカ

若い日に

書いたあれこれ

読み返す

進歩の跡は

さして見られず

坂道を

上がつてゐるのか

下りてるか

時に戸惑う

不惑は越えても

頑固ゆえ
心のままに
素直にと
言つは易く
行い難し

窓越しの

日差しあたたか

午後三時

のんびり楽しむ
かたつむりな日

ポロポロと

泣いてるよ

降り続く

雨音優しく

悲しい音色

うたかたに
例えられし
ひとときの
全ては些細な
出来事なれど

どの絵文字
使えばいいか
迷うけど
怒りや泣くでは
無いのは確か

明るめの

差し色一つ冬の田

透き通る水の

蒼にも似たり

夕暮れに

携帯越しに

見る空は

空のあおが

違つて見える

言葉にも

温度があるね

色だつて

ある氣がしてゐる

魔法の道具

フリースの

あたたかさほどの

おだやかな

温もりがいい

言葉の温度

耳にした

スタンドからの

有線を

つい口ずさむ

信号待ち

塊は

誰もがどこかで

抱える

息苦しや

生き苦しさも

航海を

続いているのか

漂流か

迷いながらも

漕ぐオール

雨粒の

数を数える

愚に似たり

そうだと分かって
いるのだけれど

穴を掘り
王様の耳は
口バの耳
叫ぶがごとく
書き綴る歌

風の音

揺れる葉たちの

騒ぐ音

聞きつつ眠る

如月の夜

高僧も

未だに悟り

切れずと言つ

煩惱 人の

代名詞なり

葉さえ無い

細い枝に

いくつもの

雨の花咲く

きらきらと

感情に

‘たかが’と‘されど’

入り混じる

いまだに青い

人間ですから

粘るよな

あの歌声が
聴きたくて
やっと見つけた

流恋情歌

泣いてるか
怒っているのか
怯えたか
けたたましく鳴く
鳥の声聞く

幸せと

辛い（ツライ）の文字が
似てること
なんか皮肉に
感じてしまう

ちりりんと
音をたてて
鳴る風鈴
ほんの少しの
風を受けて

無力なのは
言葉じやなくて
私だと

一日で一度
考えた夜

反応し

微かに共鳴
し合つてゐ
いくつもの音
静かに響く

寒い日は
こたつ布団にくるまつて

亀な生活
もぞもぞもぞと

ネジを巻き
またネジを巻く
オルゴール
途中で途切れた
曲 淋しげで

遠い地の
天氣予報を
見たりする
明日も寒く
なりそうだね

「」ではない
どこか遠くの世界へと
行つた氣がした
一面の霧

もう少し
現役でいて
奥行きも
趣もある
昭和のテレビ

それぞれの
見えぬラインの
中 時に
垣間見せるよ
見えぬ世界で

豚こまと
ピーマン卵
鮭切り身
レタスにきゅうり
メニューに塙む
さう

感情と
理屈はちょっと

ズレている

心と頭の

回路は違うね

目覚めても
不快な感情

だけ残る

夢の後の

寝付けぬ時間

大きくも

小さくもなる

心の力オス

晴れの日に出る

雲にも似てる

音楽と

文字とタバコと

コーヒーと

たまにスイーツ

まつたりタイム

春雨は

少し胸に

ひっかかる

好きとは言えない

嫌いじゃないけど

聞くたびに
なんか納得
してしまう
「これでいいのだ」
「これでいいのだ」

菜の花の

黄色に梅の

紅白と

桜のピンク

春色模様

春は色

夏には日差し

秋は風

冬は落ち葉で

感じる季節

無くしても

ひょっとしたらは

捨てられない

未練のかたまり

片割れピアス

盛りまで
あとひと円の
はだかんば
早くほこりべ
小さな蠶

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2668m/>

短歌ごっこ'10.如月

2010年10月15日22時49分発行